



年 組 名前

道新 ワークシート



4年ぶりの全面開催でにぎわう会場。マスク姿の人は少なく、笑顔が見える＝11日午後2時35分、札幌市中央区大通西3（北波智史撮影）

「観光客の裾野広がる」

外国人客増 各会場で

さっぽろ
SAPPORO SNOW FESTIVAL
雪まつり
2024

11日に閉幕した第74回さっぽろ雪まつり（札幌市、札幌観光協会など主催）は、新型コロナウイルス禍を経て4年ぶ

りに3会場での全面開催となり、多くの訪日外国人や道外客が訪れた。大通会場（中央区）周辺の商業施設では雪まつりの波及効果もみられ、コロナ禍で苦しんだ関係者から喜びと安堵の声が上がった。

「今回の雪まつりの満足度は10段階で10」。雪まつり実行委員会監事で、札幌狸小路商店街振興組合（中央区）の島口義弘理事長（60）は声を弾ませる。

雪まつり期間中の8日間、中国人観光客はまだ多くはないものの、大通会場とすすきの会場（同区）の中間にある狸小路商店街は東南アジアや欧米からとみられる外国人客があふれた。「コロナ禍前に戻ったというより今までなかった（観光客の）裾野が広がった」と雪まつりの力を感じた。

新型コロナウイルス感染者が道内で初めて相次いで確認されたのは2020年の雪まつりの大通会場だった。商店街は店舗の営業制限や外国人客の激減で苦しんだ。今回の来場者数は4年ぶりに復活したつどいむ会場（東区）を含む3会場で352万5千人。今後に期待を持たせる人出だった。

雪まつり特需はススキノ地区にも及んだ。すすきの観光協会によると、開催期間中、ススキノの飲食店はジンギスカン、ラーメン、すし店を中心に長蛇の列がみられ「コロナ禍前を上回る人出」（同協会）。氷像60基が並ぶすすきの会場で配った英語や韓国語など多言語版のガイド本は1300部が全てなくなった。

雪の滑り台や迷路など冬の遊びを楽しめるつどいむ会場は外国人が増えたという。会場で市民雪像を製作する栄東地区まちづくり未来会議の菊地裕嗣代表（72）は「タイや韓国、台湾の観光客が多く、地元客も喜んでくれて満足」と話す。

ただ、外国語ボランティアが不足するなど課題も見えた。実行委は「来場者の意見などを踏まえ、来年以降に役立てたい」と先を見据える。

（伊藤友佳子、岩内江平）

